

# 宇宙生命哲学

## ことばはじめ

58

北里環境科学センター  
名誉顧問／宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋

### いきいき大学での講演の反響

日本国民の健康寿命は、国際的にも群を抜いて長命であり、元気な高齢者を対象にした市民講座が、全国津々浦々、様々な形で開催されている。この度、千葉市を拠点にする「いきいき大学」という任意団体の招きで、「宇宙生命哲学」の講演をする機会を得た。

いきいき大学には、様々なプログラムが用意されているが、私が関係したコース(教養文化教室)は、年間25回(月平均2回)の講演の受講に対し1万4千円(受講料+管理費)が必要である。ジャンルは文学・音楽・芸術・日本文化・歴史・スポーツ・政治・経済・医学・科学など広範な領域に対し、それぞれの専門家を講師に招いている。受講者は、正に目も耳も肥えた知の地帯を支えている文化的知識人の集団である。「宇宙生命哲学」は珍しい領域との理由で、当方に声がかかった。

6月26日、千葉市民会館大ホール(1000人収容可)に、60歳代から90歳代の、およそ400人の

聴講生が集まった。私はJR千葉駅の近くのホテルに前泊し、早朝5時30分から6時30分の1時間、JR千葉駅前の周辺のゴミ拾いをした後、9時30分から11時30分まで、途中休憩と質問時間をとりながら、2時間の講演を行った。ゴミ拾いは、地球のゴミ拾いの実践編である。



2023. 6. 26 筆者 受講生の質問に答える  
「いきいき大学」千葉市民会館大ホール

今回は、原発問題を切り口にして、「宇宙生命哲学」を背景に、地球環境とエネルギー問題を中心に講演した。先ず、宇宙の成り立ち、地球上の生命現象が原子・分子レベルで循環していること、この循環の過程で地球環境が極めて重大な役割を果たしていること、更に、生命現象における原子・電子雲と原子核の役割の違いについて解説した。これらを基に、地球が巨大な高次元環境生命体であり、個々の生物は宇宙船地球号の乗組員であるとし、その一員である人類は、一人ひとりが、素敵な地球人を目指して、人と交流

し、学び、互いに助け合いながら自分の人生を楽しむことができるという私の考えを述べ、最後に、地球は一つの思いを込めて、ジョン・レノンの「イマジン」を歌って講演を締めた。

アンケート調査の感想の欄には、「人生の目的が分かった、このような講義を学生さん達にも聞かせたい!」との声もあった。有難いことである。過信しないように、これからも命の続く限り、努力したいと思う。